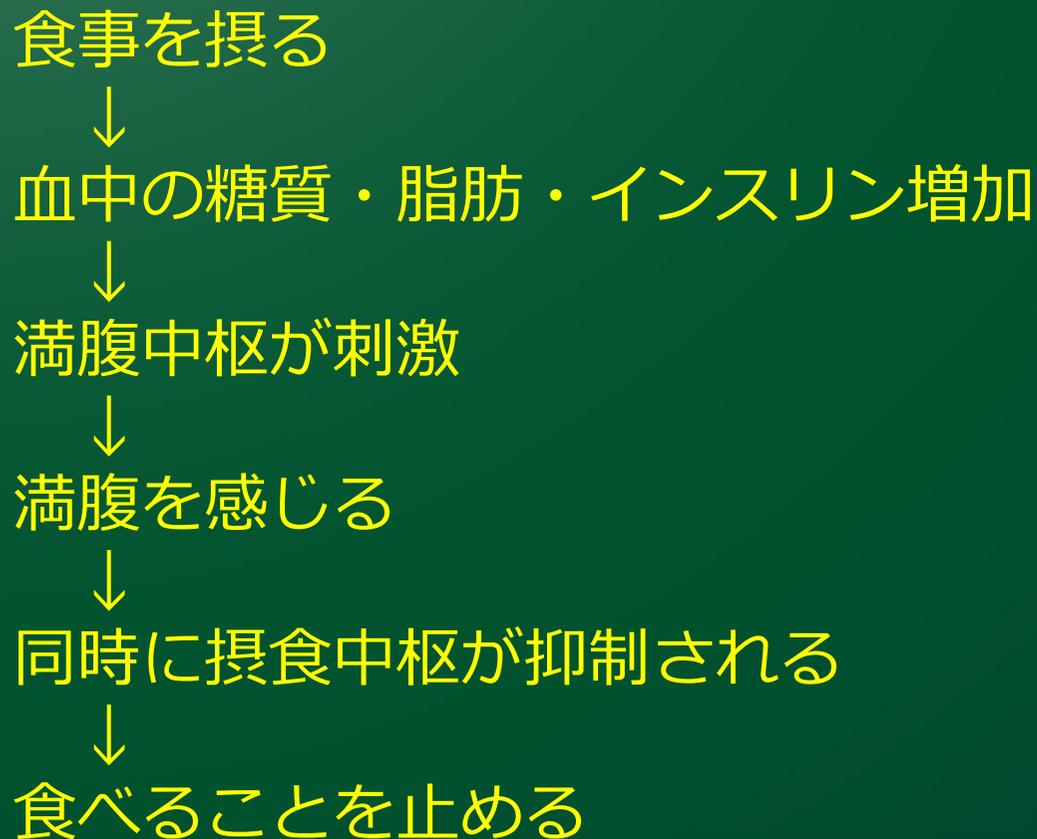


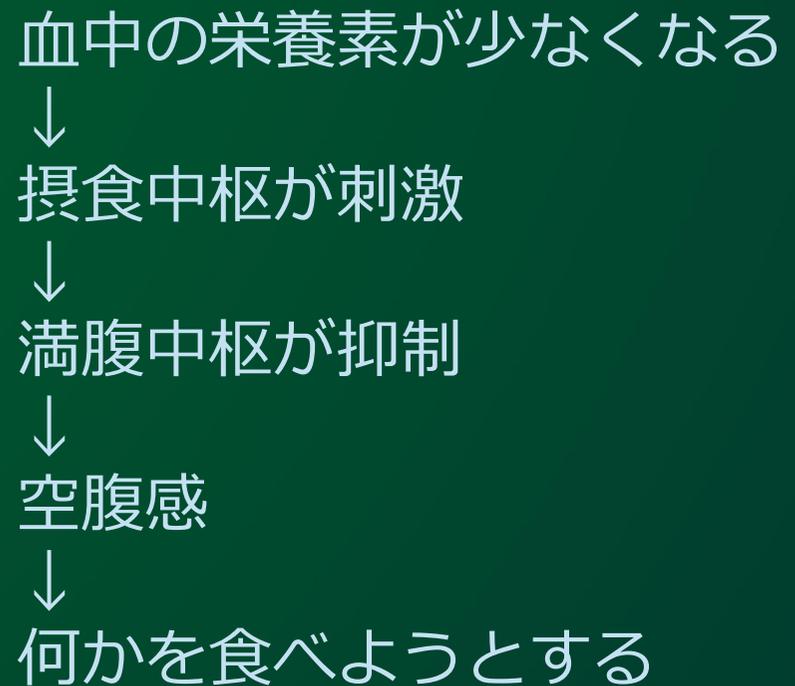
解説①

満腹感や空腹感は、 脳下垂体の満腹中枢と摂食中枢が関与

満腹感の原理



空腹感の原理



解説②

認知症状で多い

「ごはん食べていない」と再度要求する

満腹中枢の機能が働かない



満腹にならない



摂食中枢が刺激



どんどん食べたくなる



食べたことも忘れてしまう



「食べてない」と訴える

エピソード記憶
の
障害

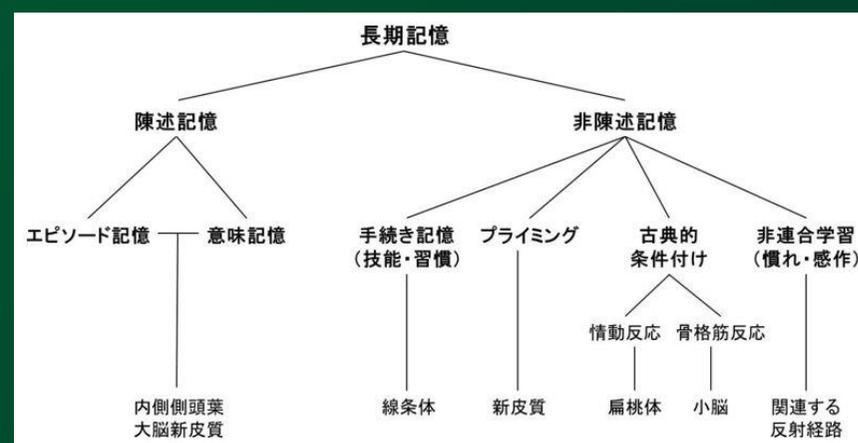


解説③

エピソード記憶（生活記憶）の障害とは

「個人が経験した出来事に関する記憶」で、例えば昨日の夕食をどこで誰と何を食べたかというような記憶に相当する。その出来事の内容（「何」を経験したか）に加えて、出来事を経験したときのさまざまな付随情報（周囲の環境すなわち時間・空間的文脈、あるいはそのときの自己の身体的・心理的状态など）と共に記憶されていることが重要な特徴である。

臨床的枠組みにおいて、「記憶」という用語はエピソード記憶を指して用いられることが多く、記憶障害という場合は、通常エピソード記憶の障害を指している。



Aの対応について

●「変ね」→本人を否定



記憶は残らないかもしれないが、
否定された悪い感情は残る



本人と家族の関係性が悪化



Bの対応について

●真実をしっかりと伝える

→本人には「食事をした」記憶はない



本人は、

「自分だけご飯を食べさせてもらえない」

「いじめられている」と感じる



本人と家族の関係性が悪化



Cの対応について

- いったん受け入れる
- 気をそらす

「今、準備しているからこれでも食べていて」
軽食を用意する等

→ **本人には満足感・安心感**



本人と家族の関係性を良好に



他の方法

- 食事の片づけをしばらくしないで、
そのまま皆で団らんする



食事の記憶がとどまりやすい



食欲に関するほかのケース

●「夜中に食べ物を探して、冷蔵庫を漁る」



あえてすぐ見つかる場所に、
簡単に食べられる物を置いておく



ポイント

- **悪い感情は残る**
- できるだけ**穏やかに、簡潔に**
- たいした間違いでなければ大目にみる
- ご本人の気持ちを受けとめる

～認知症症状別ガイドブックより抜粋～

